

山陽道道路の改良宣傳〔一〕

道路改良會囑託 田 中 好

前かき。道路改良會が帝國の幹線道路である東海道の改良を企劃して、その急務を宣傳したのは早や一と歳の昔となつた。其の後の改良状況を見るに既に京濱間國道を始め阪神間國道又は箱根鈴鹿兩峠の改良、富士大井兩大川に於ける架橋が實現せられつゝある。之は帝國路政の爲將又此が改良を鼓吹したる我が道路改良會の爲洵に慶賀に堪へざる所である。此の成功した宣傳を下の關まで延長して我國幹線道路の改良を促進せしめたいとの趣旨で本年七月旅裝を整へ山陽道に自動車を驅けることゝなつた。一行は副會長の工學博士石黒五十二、幹事の内務省道路課長松本學、内務技師工學博士牧彦七、鐵道事務官細野濟、專任幹事都筑通督

の諸氏に小島書記余等の七名である。

山陽道の地位と沿革。東京より西して鹿兒島に達する現二號國道中東海道と山陽道は相竝んで、帝國交通系統の大幹線を爲す重要道路で我國道路の模範たるべき資質を有するものであるから幼稚の域を脱せない我國の道路を改革するには先づ、東海道に次で、山陽道に指を染めなければならぬのは言ふ迄もないことである。今溯つて此の道路の沿革を尋ねると、上古崇神帝の頃には、西道ニシノミチと稱せられ、東海北陸丹波路と共に四道ヨツノミチと呼ばれてゐた。その後七道の制が立てらるゝに及び、影面道カゲトモノミチと呼ばれ、平安朝の頃は太宰府往來の要路に當つて、我國唯一の大路として使はれたのである。其後政權武門に歸し政治の中心が、東國に移り従つて交通の關係も一變したので、本道路も亦平安朝時代の交通率を失ふに至つた。併し乍ら徳川氏の時代では尙長崎道中として、相當人馬の往來が頻繁であつた。更に明治時代となつて、その十八年東京より長崎港に達する四號國道としてその運命を保つてゐたが、大正九

年道路法の實施と同時に二號國道路線に認定せられ、現在に至つたのである。

第一日。數日來打續きの豪雨に、天候を氣遣かつたが、天は吾が行に恵したものが天候は一變して快晴となつた、寔に得難い宣傳デーである。六甲の連峯初夏の氣分を漂はす七月三日午前七時三十分、兵庫縣廳案内の自動車を先發として、一行は八臺の自動車に分乗して起點神戸相生橋にスタートを切つた。相生橋より彼の南朝の忠臣正成によつて知られた湊川に達するまでは、路巾廣大ならざるに、神戸市營軌道が敷設してあつて、自動車が遅々として進行しない。加ふるにその軌條間には市内軌道として必要な敷石の設備がない爲め、宛然軌道が固定的に道路を占用して、併用軌道の特質を缺いて居る。西に進むに従ひ、交通系統は此國道に集約して、神戸市以西に於ける交通は、専ら此道路の掌握して居る状態が顯著となつて來るも、路面の施設は忘れられ、紅塵天を蔽ふて前車を見るを得ざる箇所あれば又泥濘車軸に達する箇所もある。優雅の地を以て名高き須磨町も路巾の狹隘な爲、自動車の運轉に氣

を奪はれ、源氏の君、行平の風流なぞ想起する違もない。一ノ谷を過ぎ鹽屋に差し懸れば一行の自動車はその進行を全部頓に停止した。省線山陽鐵道の鹽屋踏切である。鐵道と國道の平面交叉、しかも路巾狹隘な箇所で急角度の屈曲で交叉する爲に車輛の行違が不可能である。折角急速度の道路交通機關が發達しても、此の如き箇所のある爲めに、その能率を發輝することの出来ないのを啣ちつゝ、天下の名勝舞子公園に差し懸り見送りの神戸市役所有志と別れて、金森明石郡長等に出迎を受けた。道路の兩側には、徳川時代を物語る老松樹が、竝木として道路に美觀をそへて居る間を、左に明石海峽を隔て、手にとる淡路島の風光を賞しつゝ、爆音高く明石市に着く。昔城主松平氏が軍畧上から計畫した市街ではあるが、市民が一般交通を顧みさるものか、狭き街路に所謂軒出しをして、いやが上に路幅を狭小ならしめて居る。此くありては神戸市より自動車を驅つて、鳴く千鳥の聲を聞く譯にも行かないであらう。神戸明石間の交通量は阪神國道に勝らすとも劣らない程度である。去る

明石に敬意を表して謠曲に名を得た土山、高砂を左に見て加古川を過ぐれば、路幅廣からさるも路面は比較的良好である、併し之れは路面の築造が宜敷を得た爲めではなく、交通閑散の結果ではないかとも想はれる。御國野村附近よりは道路蜿々として、鐵道を踏切ること二回、將來に於ける改修は踏切の方法を研究しなければならぬ事を痛切に感じざるを得ない。此の附近の道路は耳芝の整理が行き届いてゐない爲め、余の塔乗せる自動車は路肩を見失つて、遂に側溝に陥つたが、余が微傷を受けたのみで、他は無事であつた。通行人の援助を得て漸く回復、姫路市に入る。街衢は明石市と同様防城政策の爲めに築造せられて、屈曲が多く幅員は明石市の夫れよりは廣いが未だ完全とは言へない。左側通行の注意建札を、各所に見るも其の整理には未だ遺憾の點が多い。彼の英雄秀吉が築いた白鷺城を後に夢前川附近までは路面良好自動車を行るに輕快である。聖徳太子の建造されたと言ふ法隆寺別院鷓班鳩寺の所在地班鳩村に向ふ。途中勾配八分の一を有する坂路がある。之に伴ふて屈

曲も甚だ多い。自動車の進行も歩行者のそれに異ならない。遂に助手をして後押しし、作業をとらしめ漸くにして班鳩村に着いた。香魚飛ぶ楫保川を渡り那波に向ふ。此處より彼の元祿の義士に名を得た赤穂城下に達するには里餘であるも視察の暇のなきを嘆しつゝ、國道の路線外には屬するが、晝食の豫定地である相生港に着いた。同地水月樓に於て姫路市相生町聯合歡迎午餐會に臨む、前面は相生灣浪靜かに、遙に綠なす家島群島を眺め午前の疲勞を慰めた。席上相生町長は「鐵道は出來ても道路は出來ぬ新婚旅行は牛の背」と歌て道路の改良を説てあり、一行は此に答へて午後二時又車上の人となる。有年を經千種川を渡る。附近は神戸出發以來の良道で、一行の意氣昂る。梨ヶ原には香川岡山縣知事、内務警察兩部長の出迎を受け、共に轍を連ねて、彼の兒島高德によりて知られたる船阪峠に差懸る。巨岩重疊、下に省線三石隧道を眺め、萬斛の涼味は翠綠を渡て來るので爽快なることは言はん方なし。今回の旅行中最難所とは聞きしも、峠そのものは難所にあらずして、路巾の狹隘な

ると、屈曲の多きと、路面の整理が忘れられたるとの三點に於て難所である。宛然河原に自動車を驅るが如きもので、彼のスタール博士が「天下惡道の横綱だ」と嘆したのも道理である。クレーの製造に戦時中大飛躍をした三石町、今はその殘骸を遺す寂寞は青年團小學生なぞの歡迎に彩色しられた觀を呈した。西へ西へと進むにつれ緑なす山又山は一行都會生活者の爲に新緑の香を恣に送るも嬉し、片上灣を左手に觀て、瀬戸内海浪靜かに涼風を送る。備前伊部燒の産地を通過して香登に着いた。松江縣會議長、川口邑久、鹿野上道郡長等官民有志の出迎を受け、同地の名木臥龍松の下に憩ひ、その養樹方法の巧妙に驚いた。名産枇杷の新味に舌鼓を打ち、互に顔見合せば、初夏の照り附けと、自動車の爲めに砂塵を蒙り、顔面備前燒に似たるも面白し。再び車上の人となる。沿道では國旗や提灯を飾り、厚き歡迎の意を表せられたるも、兵庫縣以上に劣惡な道路には、一行何れも眉を蹙めた。吉井川を渡り鐵道線路に沿ふて財田村に着いた頃は暮色漸く薄まつてゐた。此處にて出

迎の中山岡山市長等一行に合し岡山に向ふ、過ぎ來つた道路とは稍や面目を一新して、都會に近寄つたことを悟らしめた。十數輛の自動車は何れもヘッド、ライトに道を照らしつゝ、烏城の勇姿に迎へられて岡山市に着した。時に午後七時三十分である。一行は三好野花壇に投宿、同地大正館に於ける縣市主催官民合同の歡迎會に臨み、本會より携帶した、サミュール、ヒル氏寄贈の幻燈を映寫して道路改良の宣傳に努め同十時散會した。本日の行程三十七里三十二町、此に要した時間は十時間と二十二分であつた。